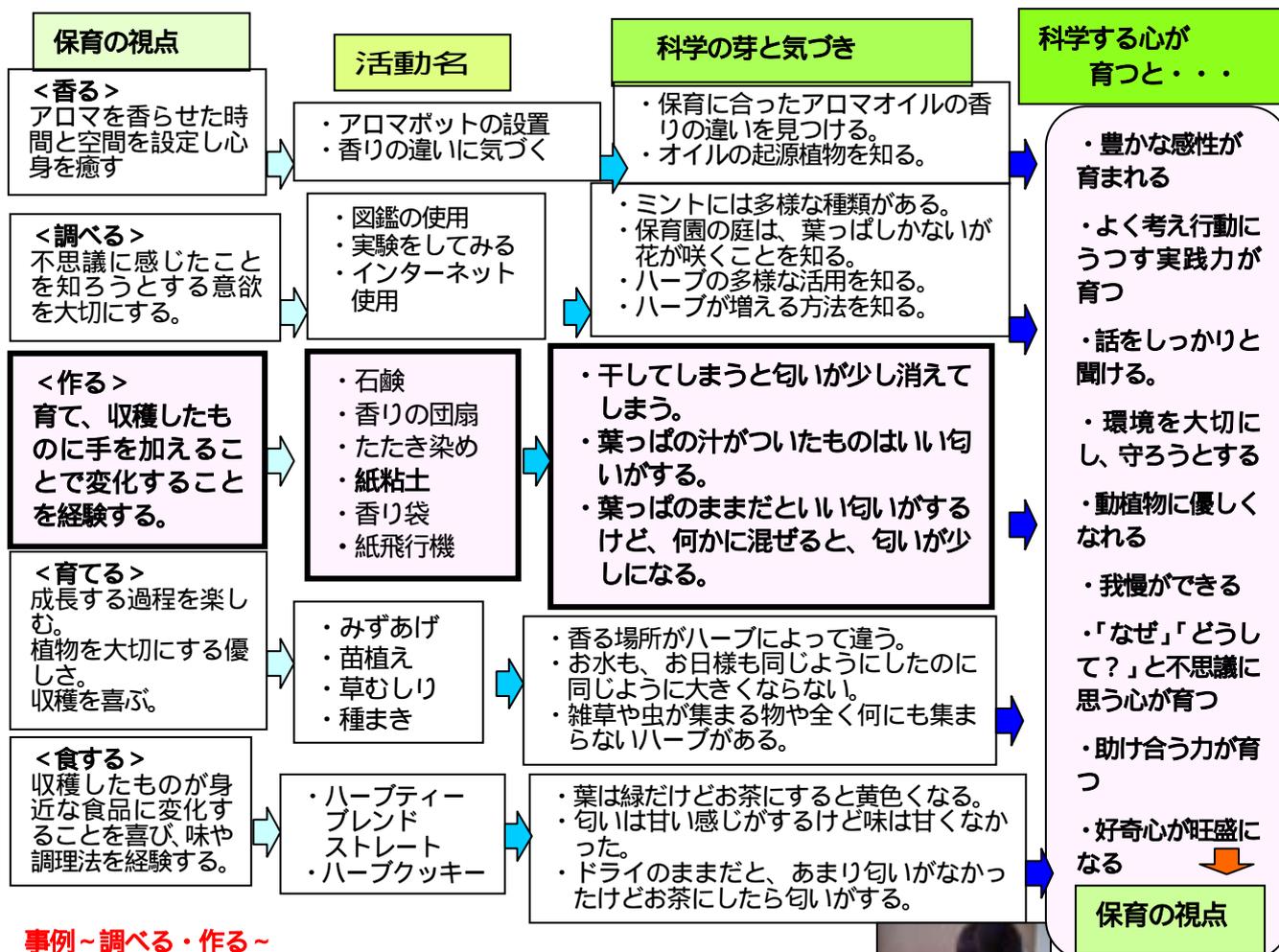


ハーブを取り入れて 品川区立中延保育園(東京都)

[5歳児]

環境設定に用いるアロマオイルの起源植物を知り、環境教育の一つとして自然への興味が深まるように「ハーブの育成」を行う。
 <実践事例集 vol.4 の2章のB-1の事例の抜粋です>

<「アロマテラピー」「ハーブの育成」を取り入れた保育の展開図>



事例～調べる・作る～

『香りを探る』・『紙粘土製作 器作り』(6月中旬)
 ハーブの使い方が決まってきた子どもから、紙粘土に混ぜて形を作る。
 ドライのハーブを飾ろうとしたが、くっつけることができず悪戦苦闘中!!
 混ぜるのだけでは、物足りないと感じた子は飾りにもする。
 葉っぱがくっつかないと、思った子どもは、残りの枝を挿して、より香りが増すのではないかと考えている。

完成

子どもたちは、様々な悪戦苦闘をしながらも、作り上げた作品はどれも個性が見られ乾くことをとても楽しみにしていた。しかし、乾いてくると茶色く変色してきた物があり「茶色くなっちゃった!」と変化に戸惑いが見られる。「どうして?」「どうする?」と子どもたちはお互いに考え不思議を膨らませている。そこで、クラスみんなで考えてみることにした。

疑問・調べる・確かめる



<ドライにしたハーブ>
 「カサカサする」
 「もう見ても大丈夫かな?」
 「見てみるよ!」
 「あっ!何にもなっていない」
 「なんでかな?」

<摘んだハーブ>

「うん!ぬれてきた・・・」
 「みて!先生!茶色になってるよ!」
 「粘土とおんなじだ～っ!」
 「わかった!ハーブの葉っぱに汁があるんだ」
 「それをぎゅっとすると出てくるんだ」
 「だから、紙も粘土もお薬があって、葉っぱの汁を入れると茶色になっちゃうんだよ」

みどころ

「香る」「調べる」「作る」「育てる」「食する」という子どものかわり方をキーワードにした「保育の視点」を明確にもって、子どもたちの身近な植物であり教材である「ハーブを取り入れた保育」の展開を示しています。具体的な活動や主題に迫る「科学の芽と気づき」により、子どもたちの経験の見直しをもって進められています。そして実際には、製作に使った粘土がハーブにより変色してしまうという経験を通して、構造図にはない探求による豊かな体験をすることに結びつきました。このように深まったことも、プランをもっているからこそ明確になります。